

とっとい・グローバルウォッチ

第93号 2014年8月8日発行

最新上海 ～現地レポート～ 77 人気上昇中のネットショッピング「海淘」

■「海淘」とは

「海淘」というワードを耳にしたことがあるだろうか。直訳すると「海外ショッピング」だが、通常、「中国の個人消費者が海外のショッピングサイトで注文した商品を個人輸入すること」を指す。

ご周知の通り、中国では数々の不正や偽造によって、国内ブランド・商品に対して不信である一方、海外からの輸入商品に対しては信頼している傾向が強い。また、海外ブランドについては、中国国内での販売価格が海外に比べて高い傾向がある。そこで、ニセモノや品質の心配が少なく、比較的割安に購入できる海淘に注目が集まっているのだ。

中国でのEC決済といえば、国内最大級のネット決済サービス「支付宝（アリペイ）」を利用するのが一般的だが、海外のサイトでは、クレジットカードあるいはペイパルが現時点では一般的だ。しかし、最近の中国人消費者の利用増加に伴い、支付宝を使用できるサイトが増えてきている。

■海淘の市場規模

中国電子商務研究センターのデータによると、昨年中国における海外からの個人輸入取引額は744億元（当時のレートで約1兆2800億円）に達した。2010年から2012年までの三年間における取引額は、それぞれ120億元、265億元、483億元で、今年2014年は1000億元（現時点でのレートで約16兆6000億円）突破が現実視されている。

■なぜ海淘が人気になったのか

既述したとおり、中国のネットショッピング市場は急成長している。ただ、もともとニセモノや品質の悪い商品が蔓延する中国では、ネット上でもそのような商品が溢れているのも事実だ。そこで、価格競争が激化しやすいネットショッピング市場であっても、価格だけでなく、信頼や安心も求める傾向が強くなってきている。

例えば、日本の商品は品質がよいというイメージが強く、食品やベビー用品においては、日本ブランドの人气が強い。また、中国人観光客が欧米の高級アパレルブランドを買い求め、現地の経済を活性化させているとよく報道されるように、中国人は海外の商品を好む傾向が強い。そこで、ニセモノの心配がなく、安心安全な海外の商品を直接購入することができる海淘に信頼が寄せられ人気となっているのだ。

また、人民元の国際化によって、人民元高と人民元決済サービスの普及も追い風になっていると言えるだろう。

■海淘サイトの紹介

海淘ブームにより、中国系の海淘専門サイトが増えているほか、海外ショッピングサイトでは、HPや問い合わせにおける中国語での対応、アリペイ決済の導入など中国人消費者への販売を拡大しようとしている。

友人は『shopbop』や『REVOLVE』などのファッションブランドのオンラインセレクトショップで最新ファッションを購入している。中国国内では販売されていない商品が多いほか、セール品も多いの

目次：

| | |
|--------------------------|-----|
| 最新上海 ～現地レポート～ 77 | 1～2 |
| ロシアレポート 14 | 3 |
| アンニョンハセヨ KOREAレポート 27 | 4 |
| 現地発！ 台湾月刊レポート 86 | 5 |
| 東南アジアビューロー レポート 8 | 6 |

で、中国国内で購入するより、商品によっては30～50%も安く手に入るそうだ。

海外からの国際配送のため、送料が気になるところだが、『shopbop』は「世界中どこでも送料無料、らくらく返品」をうたっており、『REVOLVE』は100ドル以上の購入で送料無料としている。いずれのサイトも中国語対応となっているほか、『REVOLVE』はアリペイでの決済も可能だ。

中国系の海淘専門サイトでは、『洋碼頭』や『宜送海淘』などが挙げられる。海淘市場の拡大により、中国最大手のEC企業・アリババグループも、海淘専門サイト『天猫国際』をオープンした。また、日本の「楽天」は『Rakuten Global Market』という海外消費者向けの販売サイトを持つ。

次に『天猫国際』と『Rakuten Global Market』について取り上げる。

■『天猫国際』

アリババグループが今年2月にオープンした海淘専門サイト。同社が展開する中国最大級B2C^{※1}サイト「淘宝网（タオバオネット）」でも、個人事業主による海外商品の輸入販売サイトは多く存在するが、「天猫国際」に出店できるのは一定の条件^{※2}を満たした海外企業で、現地からの直接配送を約束している点に大きな違いがある。

出店企業には、COACH（コーチ）やLancôme（ランコム）などの欧米ブランドのほか、日系企業では、アパレル通販のニッセン、化粧品・保健食品を販売するキリン堂やケンコーコムが出店している。そのほか、香港に輸入された日本製のオムツや粉ミルクが香港企業によって販売されている。余談だが、今年5月に質検総局（国家質量監督檢驗檢疫総局）から中国での輸入が認められた13カ国41社に、日本メーカーは含まれていないので、無事に中国国内の消費者に配送されるのか気になるところだ。

※1 Business to Consumer：企業と一般消費者との間で取交される取引

※2 天猫国際への出店条件：

<http://www.tmall.hk/go/act/tmallhk/sale/tmindex.php?spm=a2222.7115257.0.0.kEqOHN>

■楽天『Rakuten Global Market』

アリババグループとの提携により、今年4月17日から、「楽天市場」の海外販売サービス『Rakuten Global Market』で、アリペイによる人民元建て決済が可能となった。海外販売を行う約1万店舗の内、約250店舗でアリペイ決済が導入された。同HPを見たところ、人気のある商品は、ベビー用品、化粧品、家電、カメラなどのデジタル機や食品のようだ。

中国人消費者のために、HPは中国語版があるほか、中国版ツイッター「微博（ウェイボー）」にPRのためのアカウントを開設し、人気商品や新商品の情報を発信している。

■海淘の問題点と今後の動向

これまで中国人消費者向けの海淘は、海外に暮らす中国人が代理購入して中国に配送するという個人経営によるものが多く、問題も生じていた。例えば、海外からの配送コストが高いため、よっぽど品質面で問題がなければ、返品や交換が困難であったり、メーカーによるアフターサービスが受けにくかったりした。しかし、近年の海淘ブームにより、海淘専門サイトの開設や海外企業からの直接発送のほか、一定期間内の返品・交換・補修サービスをサイトの規約で定められているなど、中国人消費者へのサービスや品質保障の向上によって更に信頼性が高まっている。

今後は海外の企業が中国市場に参入する切り口の一つとして、海淘サイトへの出店も注目される。

【参考サイト】

『shopbop』 <http://cn.shopbop.com/>
 『REVOLVE』 <http://www.revolveclothing.com/>
 『洋碼頭』 <http://www.ymatou.com/>
 『宜送海淘』 <http://www.yi-express.com/>
 『天猫国際』 <http://www.tmall.hk/>
 『Rakuten Global Market』
<http://global.rakuten.com/zh-cn/>



楽天『Rakuten Global Market』のサイト

ロシアレポート 14 ウラジオストクにおける企業支援の現状

港町であるウラジオストク市は、日本・韓国・中国と隣接しているため外国とのビジネスに適している。そのため、ここ最近、同市のみならず国家レベルでウラジオストク市の中小企業を支援する動きが増えている。

■中小企業を支援する組織について

現在、沿海地方にはウラジオストク企業発展センター（とっとりグローバルウォッチ第90号ロシアレポート11参照）、沿海地方保障基金、沿海地方輸出促進センターといった中小企業を支援する組織が多く存在する。

* 「沿海地方保障基金」

2009年ウラジオストク市役所の命により設立。主な活動内容は、中小企業向けの融資とコンサルティングである。2009年から2013年にかけて589件の企業支援を行い、今年1月から7月の間で既に62件の融資を実施し、その額は2億3100万ルーブルにのぼる。

* 「沿海地方輸出促進センター」

2013年に設立され、主に輸出企業を対象とした支援を行っている。無料で海外貿易についてのセミナーや、ビジネスマッチング、海外市場についての情報収集を行うほか、海外向けのホームページの翻訳業務なども行っている。2013年には12回のセミナーを実施し、331社がコンサルティングや情報提供などのサービスを受けた。

* 「沿海地方企業サポート基金」

製品開発や新規事業立上げを支援する。ウラジオストクを代表する精肉業者「ラティミル」も支援を受けた1社だ。

ラティミルは、従来の冷蔵ショーケースよりも修理や組み立てが簡単な製品を考案し、同基金の支援を受け「冷蔵機械」という新しい会社を設立した。現在、この製品は多くのスーパーなどで使われている。

* 「2014 - 2018ウラジオストク中小企業の発展」

ウラジオストク市が行うプロジェクトのひとつ。コンテストを行い、選考を通った中小企業は

補助金を得ることができる。同市内企業であればどの業種でも申請でき、対象事業は、起業や展示会への参加、製品開発など。2013年は予算額が7750万ルーブル、192社がこの補助金を受け取ることができた。

■おわりに

沿海地方では、2014年1月～3月にかけて、4,006社もの中小企業が登録された。国や市の支援によりビジネス環境が改善されていることもあり、今後その数はさらに増えると予測される。

《参考》ロシアにおける中小企業の定義

小企業：従業員100人以下、利益4億ルーブル以下

中企業：従業員250人以下、利益10億ルーブル以下



『ラティミル』ある展示会での様子

アンニョンハセヨ KOREAレポート 27 韓国モバイルゲーム市場の急成長

スマートフォンの普及とエニパン（Anipang）の成功によりオンラインゲームが主流であった韓国ゲーム市場でモバイルゲームが急速に成長している。

■韓国ゲーム市場の変化、PCからモバイルへ

世界最初のゲーム専門放送チャンネル（オンゲームネット）が開局してから現在まで、韓国におけるゲーム人気は衰えることがない。スタークラフト※1からLOL※2（League of Legends）に繋がるプロゲームリーグのブームは、韓国のゲーム市場の成長を導いた。

韓国コンテンツ振興院が発刊した「大韓民国ゲーム白書」によると、韓国ゲーム市場の規模は、2009年の約6兆5,806億ウォンから2014年の11兆3,344億ウォン（予想値）に伸び、約1.7倍に拡大すること。特にモバイルゲーム市場は2009年の2,608億ウォンから2014年は1兆3,119億ウォンと5倍以上に急成長し、ゲーム市場を新しく主導すると期待されている。

過去、ゲーム市場がパッケージゲーム（スタークラフト等）からオンラインゲーム（LOL等）に移行したように、今はオンラインゲームからモバイルゲームへとその中核が移動している。あらゆる世代がスマートフォンを使用している現代社会においては、容易に楽しむことができるモバイルゲームは、10～20代の既存の利用者だけでなく、40～50代にもアピールでき、その可能性は無限大に感じられる。

※1、2 どちらもコンピュータゲームの一種

■韓国モバイルゲームの歴史

韓国PCゲーム市場急成長の立役者としてスタークラフトが存在したように、モバイルゲーム市場にはエニパンがその存在感を示している。

2012年下半年に発売されたエニパンは、簡単なパズルゲームで、所用時間は1ゲーム1分ほど。発売39日でダウンロード回数1,000万件、74日で2,000万件を突破し、1日のアクセス者数1,000万人、瞬間同時ア

クセス者数300万人の記録を立て、韓国モバイルゲーム市場の先駆者として名を挙げた。

地下鉄やバス、カフェ等で、老若男女を問わず、多くの人がエニパンをプレーしており、発売したSundayTozはエニパンの成功によりKOSDAQに上場した。

今年初めにエニパン2が発売され、再び1,000万ダウンロードを記録し、エニパン神話が続けている。エニパンの最も大きな成功要因は、ゲームへの容易なアクセスと、誰でも簡単に楽しめる点に加え、カカオトーク（モバイルメッセージ）との連動を通じて、知人と共有できる点が挙げられる。こういった形は、その後発売される多くのモバイルゲームのコンセプトに大きな影響を与えた。

その後Dragon Flight、CandyPang、MOD00 MARBLE等が次々とヒットして、韓国モバイルゲーム市場は急成長を記録することになる。

■加速する海外モバイルゲーム会社の韓国進出

海外のモバイルゲーム会社にとっても、このような韓国のゲーム市場は魅力的だ。2014年7月第3週目のGoogle Play Store※3の売上チャートを見ると、フィンランド及びイギリスのゲームが上位に位置している。また、最近、無料ゲームにおいて1位を記録した「にゃんこ大戦争」は日本のゲーム会社の作品である。

こうした企業の好調さが、今後更なる海外モバイルゲーム会社の進出を後押しするだろう。

※3 アプリなどの配信サービス

現地発！ 台湾月刊レポート 86 事故が多発している鬼月と上半期の景気

ここ最近、台湾では事故が立て続けに発生した。迷信ではあるが、鬼月だからと考える人も多い。その中で、台湾経済の現状を見てみたい。

■はじめに

台湾は、7月27日から鬼月に入った。そして7月最後の日、台湾第二の大都市である高雄にて、ガスによる大爆発が起きた。日本でも大きなニュースになったと思う。8月3日現在で死者28名。化学工場のガスパイプラインからの引火が原因とみられている。化学パイプラインが、大都市の地下を這いまわっていたことに対して驚きを隠せない。さらに鬼月の直前、7月23日には、高雄発澎湖島行きの復興航空が墜落。死者は48名にもものぼった。当初、台風が来ていたため、暴風に巻き込まれたとの報道があった。しかしパイロットは、墜落直前に自動操縦から手動に切り替え、そして滑走路ルートから大きく外れたことがわかった。ブラックボックスには、意味不明な言葉しか残されておらず、なぜこのような行動をとったのか不明である。負の事故連鎖が続く台湾高雄。街の早期の復興と、亡くなった方のご冥福を祈りたい。

■「鬼月」とは

鬼月とは、亡くなった人々が霊となってこの世に戻ってくる月のことである。この霊のことを鬼と呼ぶ。この鬼には、先祖の霊だけではなく、悪霊も混じって降りてくるから、面倒臭い。中でも7月14日は、中元普渡として、良い鬼にも悪い鬼にも食料を提供し、踊って彼らを慰める。悪さをしないで、楽しく帰っていただくお祭をするのである。この日は、農曆なので毎年変わる。ちなみに日本では、毎年固定的な日程で盂蘭盆(うらぼん)をするが、これと同じである。

さて、この鬼月には、目立った行動をしてはならないとされている。車や不動産を買ったり、結婚式を行うことはタブーである。よって、経済活動が停滞する月でもあるため、毎年商売人たちは、あの手この手のキャンペーンを行い、策略を練る。高雄の5つ星ホテルでは、結婚式の予約が20%しか入らず、閑古鳥が鳴いていたため、「鬼月結婚披露宴プラン」と題して、通常価格の63%で提供し始めた。ド

ライでお金を節約したい人にとっては、願ってもないプランである。「鬼月に入る前に籍を入れ、鬼月には披露宴だけをすれば、伝統や禁忌にうるさいご老人たちにもメンツがたつ上、お金も残る。最高じゃないの!」とホテル担当者は、うそぶいているのだが…。

■台湾経済は好調

とはいえ、台湾経済は明るい方向で進んでいる。台湾経済部による統計調査における国内商業営業額は、2014年上半期に過去最高額を記録し、10ヶ月連続のプラス成長。鬼月前の駆け込み需要も盛況であり、自動車販売関係も昨年比17.8%増と大変な伸びをみせた。このままいけば、総国内商業営業額の年額換算は、前年比で8%~10%の伸びになるのではないかと見込んでいる。株価も順調に上がっており、コンビニ、レストランにも客が来ている。さらに携帯、パソコン、液晶テレビなどの購買意欲も強い。ステンレス、鉄筋鋼材等も売買高が増えており、建築関係も強含み。

私は、韓国のセウォール号事故による自粛景気冷え込みとは異なり、今回の痛ましい2件の事故も吸収するのではないかと見ている。ただし台湾人に話を聞いてみると、心中に何か引っかかるものがあることも事実とのこと。心理変化がどのように現れていくのか注視していきたい。

ここで明るい話題も。披露宴の話を出したが、7月23日、台風が上陸した日、俳優で歌手のビビアン・スーさんの結婚披露宴パーティーが台北で盛大に開かれた。スターたちは、すべて華やかな衣装。一方、野良着みたいな台湾人出席者も結構いて、その多様性やおおらかさになんとなく日本の堅苦しい結婚式は、画一的だなと感じたりもした。

【スナーク 富田 恭敏】



東南アジアビューロー レポート 8 タイにも自転車ブームがやってきた

タイでは、最近自転車に乗っている人を良く見かける。ご存知の通り、交通事情や気候から日本のようにはいかないが、街中でも自転車を利用している人（外国人も含め）が増えている。

もちろん、以前から自転車利用者はいたが、それはどちらかというと経済的な面から自転車を使用している低所得層が多かった。しかし最近では、輸入自転車と装備で身を固めた中間層以上の自転車愛好家が増えている。朝夕の比較的涼しい時間帯に自転車走行可能な公園に行ってみると、その様子がうかがえる。自家用車に自転車を積み込み、若者から家族連れまでサイクリングを楽しんでいる。スワンナブーム空港の周囲には、昨年1周23.5kmのサイクリングコースが作られ、その利用者も多い。

■自転車業界は右肩上がり

この流行の波は、3年程前から徐々に広まってきたようである。政府の環境保護運動も後押しし、エコ面や健康面、また若者のファッションブームに乗って、自転車を始めるタイ人が急増した。その波に乗って、自転車市場もここ2、3年成長を続けている。

タイには、自転車ビジネス業界を牽引する大手が5、6グループ存在する。1,000～30,000パーツの自転車が60～70%を占め、一般的な自転車をはじめ、折りたたみ自転車、BMX、ロードバイクなど様々なタイプがある。それを超える高級自転車は、50,000～200,000パーツあたりで、こちらは本格的な自転車愛好家グループ向け。ブランドについては、現在のところアメリカ、ヨーロッパのものに特に人気があるようだが、日本や台湾、中国製なども出回っている。生産国はいずれも中国や台湾が中心だ。

自転車生産は、タイ国内でも同様におこなわれている。大手LAグループでは、OEMや自社ブランドの国内外向け生産をしており、輸出先は、やはり自転車人口の多いヨーロッパが95%を占め、価格帯は3,600～18,000パーツのようである。

今年で3回目となる展示会“バンコクバイク”は、展示ブースが200ブースと以前に比べ大幅に増加し、日本、中国、台湾など海外からの出展もあり、今後の新しいビジネス展開にも期待が持てそうだ。

■観光業にも一役

自転車を使った観光ビジネスにも大いに目が向けられている。タイ国政府観光庁によると、2013年の自転車を使った国内の観光者数は260,000人で、平均1人あたり1日500～1,000パーツ、約9億パーツの売上と

のこと。同庁は、観光向け自転車コースの開発など、引続き自転車観光の促進をしていくようだ。また、今年の自転車観光利用者は20%増の320,000人、外国人利用者15%増を見込んでいる。

バンコク市内では、自転車による下町観光ツアーがあり、グループで自転車に乗ったり、BTS（バンコクの高架鉄道）に自転車を抱えて乗込む観光客（白人が多い）を目にすることも多い。これからもっとバラエティー豊かなサイクリングツアーが増えるだろう。

自転車ブームがこのまま定着し、汗をかくことを好まないタイ人がより健康的な方向に進んでいくことを、期待する。



下町サイクリングツアーの様子（バンコク市内）

【鳥取県東南アジアビューロー 川南】

本誌は、皆様から内容のご提案や掲載されている情報へのご意見・ご感想をお待ちしております。

公益財団法人 鳥取県産業振興機構
とっとり国際ビジネスセンター

住所 境港市竹内団地255-3

Tel 0859-30-3161

Fax 0859-30-3162

Email kaigai@toriton.or.jp

URL <http://www.tottori-kaigai.com/>